

『豊田芙雄と草創期の幼稚園教育』の出版まで — すべては幸運な出会いから —

前村 晃

「豊田芙雄」との出会い

二〇一〇（平成22）年春、高橋清賀子、野里房代、清水陽子の三先生と私（執筆者代表）は、建帛社より『豊田芙雄と草創期の幼稚園教育』を出版いたしました。それなりに苦労はしましたが、幸運な出会いが幾つか重なって、出版できたように思います。豊田芙雄は、東京女子師範学校（現お茶の水女子

大学）の創設時に読書教員として抜擢され、翌年、同校附属幼稚園が開設されると、同園の教育にも携わることになります。同園で豊田芙雄と近藤濱は日本本人初の幼稚園保育（教諭）となつたのです。しかし、当時、幼稚園教育については、桑田親五訳の『幼稚園（をさなごのその）』の巻上、巻中や、わずかな資料しかなく、豊田らは保育の具体的な方法はほとんど知らないまま幼稚園教育を開始しています。

ただ、幸い同園では、フレーベル主義保育を学んだという、ドイツ人松野クララが主席保姆をしていましたので、豊田らは、クララが英語で講義し、それを監事（園長）の関信三が通訳するという形で、幼稚園教育の「伝習」を受けることができました。私が「豊田英雄」と出会ったのは、いまから二十年前、早稲田大学に編入した直後です。私は、

「教育の基礎である幼児教育」の歴史から調べ始め

ましたが、わが国の保育の開拓者は豊田英雄とその周辺の人々であることを知り、豊田らとフレーベル主義保育の導入期の関係を調べることにしました。また、西南戦争直後、豊田が、文部省から長期出張を命ぜられて、私の郷里である鹿児島の地にわが国二番目の幼稚園を開設したこと、豊田に対する個人的な関心を高めることになりました。

豊田英雄の前半生は波乱に満ちています。豊田の生まれた幕末の水戸藩は対立、抗争の絶えなかつた所ですが、豊田の夫、勤王開国派の小太郎は京都で同藩の者に暗殺されているのです。豊田が偉いのは、志半ばで亡くなつた夫の遺志を継ごうと決心をし、学問研鑽を積み、東京女子師範学校の教師として抜擢される因をつくつたということです。

こうした悲劇に耐え抜いた豊田が、幼い命を育むフレーベルの保育をどう受容し定着させていったのかを知りたくて、私は大学の卒業論文のテーマを



「豊田美雄とフレーベル主義保育」としたのです。

笑したこともありました。

私の卒業論文は、主査の大槻健先生はじめ諸先生方から過分にほめられ、「小野梓賞（おのあざき賞）（小野梓は早稲田大学創立者の一人）に推薦する予定だったが君の卒業が未確定だったので取りやめた」と言われました。しかし、優秀論文として一九八八（昭和63）年三月の早稲田大学哲学会誌『フィロソフィア』に概要を載せてもらいました。

最高の出会い

私は二〇〇六年四月から二〇〇八年三月まで、佐賀大学文化教育学部附属小学校の校長を併任しました。その縁で、当時、鹿児島大学附属幼稚園の園長をしておられた西種子田弘芳先生と出会う機会がありました。先生から「先日、豊田美雄の子孫の高橋清賀子さんが園に見えましたが、当時の資料が相当残っているようでしたよ」という、私にとつては願つてもない夢のような情報がもたらされたのです。もちろん、高橋先生にはすぐに連絡を取りました。

研究の足踏み

豊田美雄に関する研究はその後も継続し、水戸、京都、田原坂（豊田の実兄、桑原力太郎陸軍少佐は西南戦争で戦死しています）、鹿児島など関係の土地を繰り返し訪ねました。豊田美雄の二回目の墓参りをした折には、当時、小学校低学年で、現在は私立大学でドイツ語の非常勤講師をしている娘に「パパはどうしてお墓ばかり見て歩く」と聞かれて苦

高橋先生が豊田のひ孫であり保育史研究者であることは以前から知つていましたが、うかつにも私は豊田の資料がそつくり高橋家に残つていることはまったく知らなかつたのです。一〇〇七年春、私は高橋家を訪問し、最初に「代紳録」を見せてもらいました。長年探し続けてきた“幻”的「代紳録」を手にした時、私は思わず身震いしました。また、千点に近い豊田英雄関係の文書は茨城県歴史館の手で整理されたばかりで、利用しやすい状態になつていたことも幸いででした。大切に保存されてきた「高橋清賀子文書」は、まさに「宝の山」でした。

保育の原点を見る

明治初期の豊田らの保育理解は、実はびっくりするほど現代的です。子どもの成長を植物の成長になぞらえ、子どもの個性と発達に応じた保育を唱えていました。また、行為（遊び）による保育を基本と

し、集団内の相互作用を重視しています。さらに、五感による学びを大切にし、想像力を豊かにし、創造性を引き出す保育を目指しているのです。

保育系学生、幼稚園、保育所の先生方には、まずは『豊田英雄と草創期の幼稚園教育』第七章の「手記『保育の葉』」をめぐる謎と現代保育との繋がりあたりから、豊田英雄のいう保育のあり方や保育者のるべき姿などを学び取つていただき、徐々に豊田の保育観全体に目を通していただければと願っています。豊田は『保育の葉』の中で「保育者」というものは毎日、自分の心を温和にして、爽快で生き生きとするようにし、なおかつ親切で情け深く、物事に対しても注意が行き届いていて、そして忍耐強くなければなりません。」と語っています。豊田英雄の言動は現代の保育者にも大きな希望と勇気を与えてくれるものと信じています。

（佐賀大学教授）